

## すみれ通信 71号

すみれ通信は、医療・介護に携わる方に発信しています



〒 251-0032  
 藤沢市片瀬339-1  
 藤沢市医師会館  
 在宅医療支援センター  
 ☎ 0466-41-9980  
 Fax 0466-41-9981  
 メールアドレス fuji-zaitaku@movie.ocn.ne.jp

5月



## 在宅療養に関する医療情報について

先月号でもお知らせしましたが、藤沢市ホームページから、在宅医療に関する医療情報が閲覧できます。

在宅療養支援診療所・病院の届出を行っている医療機関を地区別に分け、訪問診療の対象・緊急時の対応、在宅で行える処置・管理について一覧表になっています。

在宅歯科診療協力医一覧・在宅医療受け入れ可能薬局名簿も同様にみることができますので、ご活用ください。



## 令和2年度在宅医療支援センター活動報告

新型コロナウイルス感染症のため、研修会や地区別懇談会、市民講座は中止になりましたが、緊急事態宣言解除の期間に出前講座を行いました。

出前講座 10件、参加人数 147名

対象：地域の縁側・老人会・通いの場、郷土づくり推進会議など。

相談件数：166件 昨年比49件減少

内訳：病院診療所 27件、地域包括支援センター45件、居宅介護支援事業所 37件、訪問看護ステーション3件、介護施設3件、その他行政等51件。

今年度の研修会等は決定次第、ホームページなどでお知らせします。



## 在宅療養のポイント 第7回

個人のお宅と施設で、年間1500超えの在宅訪問を行っている薬局の薬剤師さんに書いて頂きました。

伸和株式会社 湘南辻堂薬局  
 管理薬剤師 内山一成

「クスリはリスク」この言葉を聞いたことがある方も多いと思います。薬の飲み方が自己流になっていたり、副作用が起きていることに気付かれないまま過ごしてしまうのが「在宅療養」です。リスク



の少ない服薬ができるように在宅療養患者さんと向き合う際のポイントをいくつか紹介します。

## ①高齢者が服薬する上での注意点

嚥下機能低下のある高齢者には、簡易懸濁法が有効かもしれません。簡易懸濁法は55℃の微温湯に錠剤やカプセルを入れ、10分間放置し溶解させた状態で服用する手法です。この方法は一般的に経管投与の際に用いますが、薬剤が崩壊し飲みやすくなることで嚥下がしやすくなるメリットがあります。但し、腸で溶けて効くように設計された腸溶錠や、温湯で含量低下を起こす薬などもあるため簡易懸濁法が行えるかの確認は必要です。(ぜひ薬剤師まで)

薬を飲んでふらつき、自宅で転倒を起こすのは避けたいところです。降圧薬や血糖降下薬はふらつきを起こす代表例ですが、ベンゾジアゼピン系睡眠薬(レンドルミン・ハルシオンなど)が起こしやすい筋弛緩作用は注意が必要です。また処方されやすい胃薬のH2ブロッカー(タガメット・ガスターなど)はせん妄を引き起こすことがあるため、転倒転落を繰り返すなど疑わしい症状があるときは他の胃薬への変更を提案することもあります。

## ②独居高齢者が忘れずに服薬するために

「内服回数」と「生活スタイル」がずれていないことが重要です。食事を1日何回摂るか、何時に起きて何時に寝るかなどを確認し、1日1回の服用でよい薬へ変更を提案することがあります。上手く変更ができるとポリファーマシー(多剤服用)を解消させるきっかけにもなります。

管理の点では日付と用法を印字した一包化が有効です。「〇月〇日」「朝食後」などと書いてあれば確認しやすく、もし忘れてしまってもいつ忘れたかが明確です。おくすりカレンダーにセットすると視覚的にもわかるのでオススメしています。

以降は次号に続きます。

